

平成 16 年 3 月 11 日、19 日

第二回・三回石神井川流域連絡会

現地視察を 2 回行ないました



板橋区板橋



西東京市向台調節池

第二回流域連絡会は、平成 16 年 3 月 11 日の木曜日に行なわれました。

当日は、風の強い中で、氷川台駅の正久保橋から下流の一級河川始点の区間（約 10km）を、徒歩により視察しました。

第三回流域連絡会は、平成 16 年 3 月 19 日の金曜日の午後にマイクロバスにより行なわれました。

当日は、中流部のすすしろ橋から、上流部の一級河川終点までの 7 箇所を視察しました。

当日は、各視察地点で事務局から、付近の歴史、工事の思い出、水害などの説明が行なわれました。また、城北中央公園他 4 箇所では、川の通信簿点検シートによる通信簿付けが行なわれました。視察終了後は、委員の方々と懇談会が開かれ、和やかな意見交換が行なわれました。

視察箇所の概要



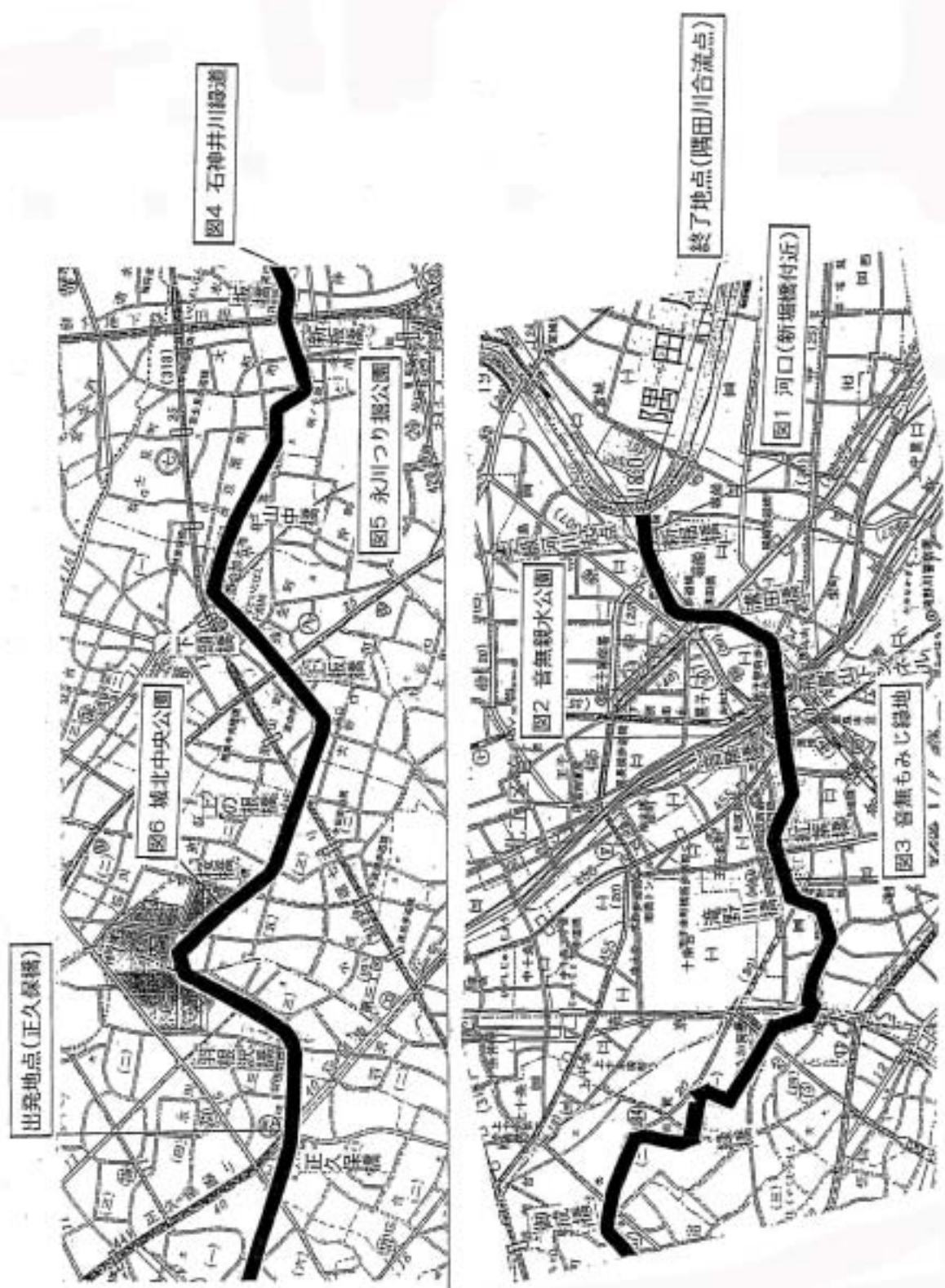
石神井川流域連絡会 委員名簿

平成 16 年 3 月 1 日現在

委 員					
都 民 委 員	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 北区 北区 北区 北区 板橋区 板橋区 板橋区 板橋区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 西東京市 小平市 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 江原秀典 清水孝彰 遠山隆久 山田久司 棚橋健造 田村元雄 本多大佑 渡瀬淑夫 秋山榮子 上原勝直 佐藤英雄 庄司義雄 沼尻重男 三浦清喜 中村賢司 羽鳥謙三 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">都 民 委 員 計</td> <td style="text-align: center;">16名</td> </tr> </table>	北区 北区 北区 北区 板橋区 板橋区 板橋区 板橋区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 西東京市 小平市	江原秀典 清水孝彰 遠山隆久 山田久司 棚橋健造 田村元雄 本多大佑 渡瀬淑夫 秋山榮子 上原勝直 佐藤英雄 庄司義雄 沼尻重男 三浦清喜 中村賢司 羽鳥謙三	都 民 委 員 計	16名
北区 北区 北区 北区 板橋区 板橋区 板橋区 板橋区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 練馬区 西東京市 小平市	江原秀典 清水孝彰 遠山隆久 山田久司 棚橋健造 田村元雄 本多大佑 渡瀬淑夫 秋山榮子 上原勝直 佐藤英雄 庄司義雄 沼尻重男 三浦清喜 中村賢司 羽鳥謙三				
都 民 委 員 計	16名				
行 政 委 員	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 北区建設部河川公園課長 板橋区土木部計画課長 練馬区土木部建設課長 西東京市都市整備部下水道課長 小平市環境部下水管理課長 東京都環境局自然環境部水環境課長 東京都建設局河川部副参事（中小河川計画担当） 東京都第四建設事務所工事第二課長 東京都第六建設事務所副所長兼工事課長 東京都北多摩南部建設事務所工事第二課長 東京都北多摩北部建設事務所工事第二課長 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 清水英男 老月勝弘 浅井葉子 本橋久雄 清水孝彦 中村真一 米沢彰三 伊藤浩之 浦山 齊 宮崎 壽一 青木 浩 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">行 政 委 員 計</td> <td style="text-align: center;">11名</td> </tr> </table>	北区建設部河川公園課長 板橋区土木部計画課長 練馬区土木部建設課長 西東京市都市整備部下水道課長 小平市環境部下水管理課長 東京都環境局自然環境部水環境課長 東京都建設局河川部副参事（中小河川計画担当） 東京都第四建設事務所工事第二課長 東京都第六建設事務所副所長兼工事課長 東京都北多摩南部建設事務所工事第二課長 東京都北多摩北部建設事務所工事第二課長	清水英男 老月勝弘 浅井葉子 本橋久雄 清水孝彦 中村真一 米沢彰三 伊藤浩之 浦山 齊 宮崎 壽一 青木 浩	行 政 委 員 計	11名
北区建設部河川公園課長 板橋区土木部計画課長 練馬区土木部建設課長 西東京市都市整備部下水道課長 小平市環境部下水管理課長 東京都環境局自然環境部水環境課長 東京都建設局河川部副参事（中小河川計画担当） 東京都第四建設事務所工事第二課長 東京都第六建設事務所副所長兼工事課長 東京都北多摩南部建設事務所工事第二課長 東京都北多摩北部建設事務所工事第二課長	清水英男 老月勝弘 浅井葉子 本橋久雄 清水孝彦 中村真一 米沢彰三 伊藤浩之 浦山 齊 宮崎 壽一 青木 浩				
行 政 委 員 計	11名				
合 計					
27名					

事務局 東京都第四建設事務所 工事第二課 工務係
 住所 〒170 - 0005
 東京都豊島区南大塚 2 - 36 - 2
 電話 03 - 5978 - 1734
 担当：伊藤（正） 佐藤

石神井川現地視察概要図



第二回

石神井川流域連絡会現場視察の感想等

第三回

都民委員：川の通信簿を評価するのに、全体か、川の中が対象になるのかによって評価に違いが出るとおもいます。また、今後はどのように利用されるか知りたい。

行政委員：廻りの公園等の状況や施設を含めて評価を願う。この資料は、拠点整備箇所の選定と整備方針等（イメージ図）に役立てたい。

都民委員：石神井川の管理通路を分断しないで、幹線道路を横断出来るようにしてほしい。

行政委員：現状から中々難しい問題である。

都民委員：護岸がコンクリートのむき出しとなっているが、下流側の護岸の内側は、ツタが生い茂っている。むき出しではなく自然を感じさせる物が欲しい。

都民委員：コンクリートの側壁にツタが垂れ下がっている所があった。眺めも良く且つ、自然化していると感じられた。最初にツタ等の植栽を全体的に進めていただきたいと思う。

行政委員：現在施行している護岸は、ブロック型の化粧型枠を使用している。過去に施行した箇所等含めて、ツタ等をはわせる事も考える必要があると思うので、連絡会で議論していきたい。

都民委員：音無もみじ緑地の様に、川と公園を一体的にした親水護岸は、他の所でも出来ないか。

行政委員：現在の状況では難しい。将来、実施可能になった時の整備計画の基礎資料とするために、次回以降の連絡会で委員の皆さんと検討する事としている。

都民委員：板橋区の加賀橋付近に一部護岸の中に緑地部分があるが、そこに降りられる様にならないか。

行政委員：平成17年度に板橋区が護床工事（加賀渓谷）を計画しているので、連絡会に於いて、現在、設計されている物を参考にして、議論をしていきたい。

都民委員：北区王子駅で管理通路がなくなっているが、早期に隅田川合流部まで歩ける様にして欲しい。

行政委員：現在、首都高が工事中であり管理通路は接続していないが、工事完了後は歩

ける様になる。

都民委員：板橋区が護床工事を行なっているが、昨年工事をした所には、鯉が泳いでいた。例年なら流されて見ることが出来なかった。

行政委員：護岸先掘防止の工事を行なっています。多自然形にと所々に魚巢を入れて魚が滞留できる構造にしましたから、その成果があったのかと思っています。

都民委員：石神井川からの流された魚や、また、隅田川からの魚が飛鳥山公園の下の隧道を昇れないが、隧道の拡幅や魚道を造ることが不可能ですか。

行政委員：飛鳥山分水路は、内径 6.5m の 2 本のトンネルで長さ 250m、勾配 1/60 である。地形状で呑口と吐出口の高低差がありすぎて、魚道等を造るのは大変難しい。

都民委員：普段は、水量の少ないきれいな川であるが、一度集中豪雨が起きれば、石神井川は驚くほど変貌します。黄濁、悪臭、急激な増水となります。親水を検討する場合は十分に皆で考慮する必要があると思う。

行政委員：当然に治水が第一であるので、連絡会において、皆さんと考えていきたいと思う。

都民委員：石神井川は水量が少ないので、湧水を十分に活かす事を考えてほしい。

行政委員：湧水箇所においては、河床構造を含めて更に検討していきます。

都民委員：溜淵橋から弥生橋間（早大グラウンド・東伏見小）については、学校・公園等との一体化整備を考えて行くことが必要と思う。

行政委員：拠点整備箇所の対象となっている場所であるので、将来の整備計画の資料となる様に、公園等との一体化を考えていく事が、大切であると思う。

都民委員：石神井川始点の隅田川合流点から、最上流終点の小金井公園間の 2 回にわたる現場視察は、意見交換会を含め、委員及び管理者との共通認識を確かめる事が出来て非常に有意義であった。

行政委員：検討する箇所が選定されたら、もう一度、現場視察をするのが良いと思う。

都民委員：視察の感想を申しますと、石神井川は直線の河道が主であっても、所々には広く開けた所や屈曲部もあり、また河床の深みには鯉がおり、そして土砂溜まりにはカモが住むなどしている。将来の整備計画のために、水に足がふれられる様な親水護岸を公園計画等と調整しながら進める事が必要である。